

史料群番号 3

史料群名	こばやしわそうじ 小林和惣治（和六）家文書		旧所蔵者	小林和六
探訪時住所	岩手県宮古市磯鶏			
現在の住所	岩手県宮古市磯鶏			
探訪年月	昭和25（1950）年8月			
史料の年代	正徳5（1715）年～大正3（1914）年	史料の 総点数	（387点）	
年代の内訳	近世 43点/近代 223点/不明 121点	筆写稿本	あり	
既刊行目録	「昭和五十一年三月 水産庁水産資料館所蔵古文書目録（北海道・岩手編） - 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」			

収蔵にいたる経緯

探訪の記録によれば、本史料群は昭和25（1950）年8月に探訪された。寄贈手続きが取られたのは本史料群が水産資料館に保管されていた昭和53（1978）年10月になってからである。  
 本史料群の探訪時の書類には「小林和六家文書」とあるが、水産資料館の時代に、同史料群のなかに多く登場する「小林和惣治」の名を採って、「小林和惣治家文書」と命名された。  
 なお、水産資料館の整理は、旧所蔵者の名と関係なく、史料に頻出する名から史料群名を決めていることが多い。

史料群の概要

18世紀の前半から20世紀の前半まで、ほぼ200年にわたる一括史料群である。閉伊郡磯鶏村及びその周辺域の漁業については「細越忠次家文書」の「史料群の概要」参照。  
 「小林和惣治家」は「門屋」と言われ、磯鶏の鰯地引網漁を行う網主であった。当初は小舌網を発明した大伊儀右衛門から網を仕入れていたものと考えられる。（宮古市史）  
 本史料群は、鮭鰯地引網の漁業認可に関する願書などの書類写、「大漁浜帳」などの水揚帳、鮪や鯖の建網漁の勘定覚など、網漁の経営に関する帳簿が大半を占める。

